

(報告)「大学教育の分野別質保証のための教育過程編成上の参照基準 医学分野」

## 1 現状及び問題点

医学分野では、文部科学省による「医学教育モデル・コア・カリキュラム」と厚生労働省による「医師国家試験」が主軸となり医学教育の質は保証されてきたが、近年は国際基準を踏まえた医学教育分野別評価が実施されるなど医師養成の在り方は変革期にある。医学分野参照基準では医学の普遍的で共通の理念・考え方を示し、医学のみならず多様な医学関連分野の教育編成にも利用いただけるよう策定したものである。

## 2 報告の内容

### (1) 医学の定義・特徴

「医学」は自然科学（生命科学）の一分野として人体の構造と機能を解明し、精神的・肉体的疾病の成因から診断・治療・予防する方法を研究し発展してきた学問で、人の健康の維持・増進が目的である。一般に基礎医学（解剖学、生理学、病理学など）、臨床医学（内科学、外科学、小児科学、産婦人科学など）、社会医学（衛生学、公衆衛生学、法医学など）の3分野に体系化される。医師としての教養教育も重視される。「医療」は医学に基づき健康の維持、回復、促進を図ることを目的に行う諸活動である。

### (2) 医学を学ぶべき学生が身につけるべき基本的素養

医学では生命現象、人体の構造・機能、病態、診断、治療、予防など医学全般に関する知識の理解・修得に加え、プロフェッショナリズムと使命感、生命倫理に対する深い理解が重要である。さらに基本的な診療能力（診察手技、臨床推論、インフォームドコンセントなど）を修得し、医療安全、他医療職との協働、地域医療、社会制度なども理解する。国際的な医学情報共有のための語学や情報通信技術などの修得も重要である。

### (3) 学修方法及び学修成果の評価方法に関する基本的な考え方

医学教育では講義に加えチュートリアル教育、自己学修、臨床実習を充実させ、高い臨床能力、自己学修能力を涵養することが求められる。医学生が“Student Doctor”として医療チームへの参加が推奨され、医学・医療の発展のための研究マインドの涵養も重要である。学修成果は知識を問うだけでなく、客観的臨床能力試験、学修ポートフォリオなどの多様な評価方法により質の高い医師の育成が目指されている。